

芦屋のまちづくりの役割は一人ひとりの市民です。芦屋市内では多様な市民グループ・団体の活動が行われています。これからの地域づくり・まちづくりは行政だけでなく、市民の皆さんが行うさまざまな市民活動とともに、取り組むことが大切です。今回は、5つのグループをピックアップしてご紹介します。皆さんも「やってみたいこと」を実現させてみませんか？



「芦屋あおぞら子ども食堂」は子どもたちに生産者・栄養・農法など、美味しい「食」を「無料」で提供する「食育」イベント(左上下)横山さんと八木さん(右)

地域課題を調理する

フライパン 横山宗助さん

長年ソーシャルセクターで働き、まちを良くするための中間支援・講座・イベント企画などを行ってましたが「非営利団体だけではまちは変えられない」と思うようになりました。変えられないにも関わらず、特定の団体にループしている委託事業や補助金や支援に怒りを感じ、ITとデザインをつかったインパクトのある事業をつくりたいと思うようになりました。

協働は、特別な誰かのものではなくて、個人でも団体でも企業でも誰もができることだと思っています。ただ、今はその面白さや意義が整理されてなくて、関わっている人ですらほとんどの人がまだ勉強中の発展途上な分野です。これからは、もっとデータをオープンにして、広告や計画をデザインしなくてはいけないと思います。そうすることで市民活動が、ヤラされ感のあるボランティアや身内の集まりでなく、市民の楽しい休みの過ごし方として位置づけられて、就労やお金や学歴だけが価値ではないことが「普通なコト」になっていくのはではないでしょうか。

地域課題を調理する フライパン

地域課題ならどんなコトでも、取り組みます。その課題の専門家ではないからこそ、見つけれられる解決策やグッドアイデアがあると思っています。



ウェブサイト



Facebook

わたしは、わたしのままでいい。

アトリエ たいようのした 中山英子さん

誰でも自由に参加できるアトリエを芦屋公園で開いています。アトリエといっても描き方を教えたり課題があるわけではなく、今、やりたいこと、やってみたいことを自分で選びます。途中で遊具に遊びに行っても、見ているだけでもOKです。「できるかな…」から「できた！」喜び、無心になれた驚き、作品を飾るうれしさや恥ずかしさ、言葉にならない気持ちを色や形で表現できた時の開放感など、作品を通して「こんなところも私なんだ」「これでいいんだ」と受け入れられ、自分で自分を認めることができた喜びは、周りに優しくなれる心の余裕にも繋がります。

太陽の光を浴びながら吹き抜ける風を受け、時折空を見上げながら表現できる気持ちよさは、野外ならではの醍醐味です。子どもも大人も気の向くままに手を動かし色や素材に助けてもらいながら、自分だけの表現をぜひ楽しんでください。



芦屋公園で自由にのびのびと創作活動をする子どもたち(左上下)「表現することの楽しさ、気持ちよさを感じられる場所づくりをしています」と中山さん(右)

アトリエ たいようのした

4月～11月の第1日曜日に、芦屋公園で子どもも大人も自由に参加できるアトリエを開催。絵具コーナー、廃材や自然物が使える工作ゾーン、粘土などの感触遊びを展開しています。



Instagram



Facebook

一緒に市民活動の扉を開けましょう

リードあしや事務局長 橋野 浩美さん

あしや市民活動センターは、通称「リードあしや」として親しまれています。「リードあしや」の愛称は、市民公募で芦屋の市民活動のリーダー的存在が生まれる場所として、「リード=lead」「芦=reed」と「リーダー=leader」から生まれた造語。昨年4月には1階をリノベーションし、団体や個人が学び、モノづくり、交流、コミュニティビジネスの場など多様な市民活動の場として利用しています。正に活動のリーダー的存在が生まれつつあります。

リードあしやは、市民(在住・在学・在勤)の皆さんの活動を応援する場であり、地域密着型の中間支援として行政とのパートナーシップを持ち「住み続けたいまち」「活動人口100%のまち」を築き、夢の実現を目指します。何かしたい！こんなことができる！などなどグッドなアイデアが浮かんだら、ぜひリードあしやへお越しください。



市民活動センター リードあしや

リードあしやは、地域の課題解決・発展のために市内で活動する個人・市民活動団体が集う場です。



問い合わせ リードあしや ☎26-6452